

新研究員紹介

平成 19 年度に新たに先端基礎研究センターに加わった研究者を紹介します。

グループリーダー



勝村 庸介 Yosuke Katsumura

- ①放射線作用基礎過程研究グループ
- ②広島県広島市
- ③放射線化学、応用放射線化学。(最近は原子炉水化学にも力を注いでいます。)
- ④私は大学に所属しながら、グループのリーダーを仰せつかっています。大学と原子力機構の良い所を融合し、水準の高い研究を実施し、国内は勿論、海外の研究者とも連携を進めたいと考えてます。結果として世界的な成果を挙げる事により、日本のレベルの更なる向上、新しい展開、若い研究者の育成を実現したいと思っています。

- ①所属グループ
- ②出身地
- ③専門分野、最近の研究
- ④抱負など

※氏名の五十音順に掲載しています。

研究員



石川 法人 Norito Ishikawa

- ①極限環境場物質探索グループ
- ②神奈川県横須賀市
- ③放射線物理、高エネルギークラスター・固体衝突に伴う固体内原子移動の研究
- ④高エネルギー粒子照射に伴う高密度電子励起による固体内原子移動現象の解明(長年のモデル論争に決着を!)。高エネルギークラスター加速技術の開発とクラスター・固体衝突に伴う集団的原子移動現象の探索。極限環境場での特殊な物理と従来の固体物理をつなげる枠組みを作り、極限環境場物理に市民権を与えるよう努力すること。



須貝 宏行 Hiroyuki Sugai

- ①極限環境場物質探索グループ
- ②神奈川県横須賀市
- ③格子欠陥及び放射線物理、高速クラスター照射等の高密度電子励起による新奇物性探索
- ④新たな研究の流れを、東海から世界に発信することを目指します。なかなか実現できませんが、今までの研究のマイルストーン (Solid State Ionics 177 (2007) 3507, Li イオン伝導体中の格子欠陥と拡散現象の論文) を出しました。機構図書館にあります。連絡下されば御送りします (sugai.hiroyuki@jaea.go.jp)。

博士研究員



鈴木 義規 Yoshinori Suzuki

- ①重元素生物地球化学研究グループ
- ②長野県飯田市
- ③アクチノイド溶液化学、生物電気化学
- ④大学院生のころから先端研と大学を行ったり来たりしてお世話になっていたの、新メンバーという感覚が薄いですが、常にフレッシュな気持ちで研究を続けていきたいです。あと、他のグループの研究員とも、もう少し交流を深めていきたいです。先端研ポリング大会またやりましょう!



中堂 博之 Hiroyuki Chudo

- ①アクチノイド化合物磁性・超伝導研究グループ
- ②大阪府豊中市
- ③核磁気共鳴法による新規ネプツニウム超伝導体 $NpPd_2Al_2$ の超伝導発現機構の解明
- ④自己紹介で私は「1浪、1留、1南米」という文言をよく使っています。1浪はただ人生につまずいただけ。1南米は1年休学し中南米を放浪することに使いました。世界の広さを知り己を知るための旅でしたが己を見失ってしまい、帰国後留年しました。学生時代を満喫しましたが、気がつけば30歳学生でした。この先どうなるかわかりませんが、明るい未来を夢見てがんばって生きます。



長江 大輔 Daisuke Nagae

- ① 極限重原子核研究グループ
- ② 茨城県日立市
- ③ 中性子過剰 AI 同位体の電磁気モーメント測定を通じた核構造の研究
- ④ コレステロール値が正常の範囲を超えそうということなので、適度な運動を心掛け、過度な飲食に気をつけ身体のことを多少気にしながら原子核の殻構造の研究を地道に楽しく行っていききたいと思います。さらに原子核物理に捉われることなく様々なアクティビティにも挑戦できればと思っています。



能田 洋平 Yohei Noda

- ① 強相関超分子研究グループ
- ② 大阪府大阪市
- ③ 動的核スピン偏極を用いた新しい中性子小角散乱手法の開拓
- ④ 原子力機構は、大型の実験装置をはじめ、研究への投入資源のスケールが大学院の時とは桁違いに大きいということに驚かされる日々です。また、同年代の研究員の方も多くおられ、刺激に満ちた研究環境です。任期中、目一杯がんばります。今後ともよろしくお祈りします。



野口 実穂 Miho Noguchi

- ① 放射線作用基礎過程研究グループ
- ② 埼玉県上里町
- ③ 放射線生物学、放射線誘発クラスター DNA 損傷の修復メカニズムの解明
- ④ 放射線の生物致死効果は化学薬剤などとは異なり、DNA に局所的に複雑な傷（クラスター DNA 損傷）を作ることによって起因しています。このようなクラスター DNA 損傷と生物の持っている修復システムの関係から放射線の生物作用を明らかにしていきたいと思っています。



郝 汀 Hao Ting

- ① 極限環境場物質探索グループ
- ② 中国漢中市
- ③ 材料科学、超重力場下での原子の沈降メカニズムの解明
- ④ 極限環境場で誘起された固体中の成分組成の再配列、固体相変態及び拡散メカニズムの解明を進めながら、新物性の発見と新物質の創製に関する研究にチャレンジしたいと思います。



松本 吉弘 Yoshihiro Matsumoto

- ① 極限環境場物質探索グループ
- ② 広島県呉市
- ③ 分子分光学、遷移金属-有機分子混合系を対象とした電子・スピン状態研究
- ④ 遷移金属と有機分子の混合分子系は、組成比に応じて自己組織化的に多様な構造を取ります。同時に、単一原子では観測されない新奇機能を示すことも明らかとなってきましたが、発見メカニズムに関しては未だ多くの謎が眠っています。それら一つずつを解き明かして行くと共に、太平洋の荒波に打ち勝ち、大物を釣り上げたいと思っています。

リサーチフェロー



林 銘章 Lin Mingzhang

- ① 放射線作用基礎過程研究グループ
- ② 中国福建省
- ③ 放射線物理化学
- ④ 高速・超高速パルスラジオリシスを用いた放射線作用基礎過程研究に挑戦したい。